

## 2022年度 事業計画書

2022年4月1日～2023年3月31日まで

丹波篠山の子ども食と健康を考える会

### 1 事業の背景

厚生労働省の貧困率状況調査によると、子どもの相対的貧困率は2000年以降13～16%で推移しており、7人に1人の子どもが相対的貧困の状況で生活している。(相対的貧困は、居住している地域の所得中央値の50%に満たない所得しかないことを指す。)

中でも、ひとり親家庭の相対的貧困率は、母子家庭では51.4%、父子家庭では22.9%となっており、ふたり親家庭の5.9%に比べると非常に高くなっている。(独立行政法人 労働政策研究・研修機構の「第5回(2018)子育て世帯全国調査」による)

そこへ流行した新型コロナウイルス感染症。生活福祉資金貸付の申請件数が増えるなど、困窮している世帯が増え、食費を削るなどの状況が、子どもたちの健全な成長にも影を落としている。

新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種は進んだものの、兵庫県においても感染収束はまだ見えてこない。保護者たちは、「子どもたちを感染から守りたい！」との思いから、今もなお外で遊ばせることをためらい、家に閉じこもる傾向があり、子どもたちの運動不足やストレス、保護者のストレスが懸念される。

2020年度に当団体が行ったアンケート(回答数239)では、ほぼ半数の保護者が「行政や社会福祉協議会に相談できることを知らない。」と回答している。また同じアンケート結果で、ひとり親世帯・年収の低い世帯・子どもの多い世帯など、普段から生活が厳しい世帯ほど、新型コロナウイルス感染症に強い影響を受けていることもわかっている。

### 2 事業実施の方針

昨年度は、子どもの居場所(遊び場)『さきっこ青空ひろば』の開催を中心に、お昼に弁当を提供することで食の支援も行ってきた。しかし、居場所に来られない世帯も多く、今年度は、食の支援をより重視し、居場所の開催は年1回程度とする。

また、孤立しがちなひとり親世帯同士をつなぐため、交流会も企画し、孤立を防ぐとともに、相対的貧困率が高いことも想定されるため、食支援などの支援も実施したい。

これまで年1回行ってきた講演会についても、行政・社会福祉協議会など支援する側がよく知らないであろう実情を伝えることのできる講師を招き、開催する。

### 3 事業計画

#### (1) ツキイチ弁当お届け事業と相談事業

内 容 : 困窮世帯や課題を抱えている世帯が利用しやすいように、ハッキリとは呼びかけず、「ちょっと今、食の応援が必要な世帯」と柔らかな呼びかけによって、毎月1回希望する世帯に弁当を届ける。届けることをきっかけに、少しずつ信頼関係を築き、相談に応じ、困窮の解消、課題の解決や軽減を図る。

実施日 : 毎月最終金曜日を基本とする

受取場所 : 丹波篠山市民センター、城東公民館。一部配達にも対応する

対 象 : 丹波篠山市内在住の親子

見込数 : 各回70世帯、300食前後

#### (2) 子どもの居場所(遊び場)『ささっこ青空ひろば』

内 容 : 丹波篠山チルドレンズミュージアムでの工作体験。

実施月 : 1月

場 所 : 丹波篠山チルドレンズミュージアム

参加対象 : 丹波篠山市内在住の親子

参加見込 : 15世帯、40名前後

内 容 : ドイツライプチヒ大学公認コーディネーショントレーナー桐村裕一氏による遊びの教室。

実施月 : 2月

場 所 : 丹波篠山市内の体育館

参加対象 : 丹波篠山市内在住の親子

参加見込 : 15世帯、40名前後

#### (3) ひとり親世帯の交流事業

内 容 : 親子で楽しく交流できるよう、また申し込みしやすいよう、篠山の豊かな農産物を収穫する体験を交えた交流会を開催する。

実施月 : 8月(夏野菜収穫)、10月(黒枝豆収穫)、3月(イチゴ狩り)

場 所 : 丹波篠山市内の農園

参加対象 : 丹波篠山市内在住のひとり親とその子ども

参加見込 : 各回15世帯、40名前後

#### (4) 講演会の開催

講 師 : 木本努氏(京都いえのこと勉強会 理事長)

実施予定 : 2021年11月

開催予定場所 : 丹南健康福祉センター

参加対象 : 行政職員・社会福祉協議会職員など子育て支援関係者、一般市民

参加見込 : 40名前後

2022年度 収支予算書

2022年3月5日

丹波篠山の子ども食と健康を考える会

会計期間 2022. 4. 1～2023. 3. 31

【収入】

科目	内容	金額	備考
繰越金	前年度繰越金	80,000 円	2022年3月5日時点の見込
助成金	子どもの食の応援事業補助金	1,000,000 円	
	WAM助成	1,000,000 円	
	コープともしび助成金	300,000 円	
	ひょうご支え合い基金	300,000 円	
参加費	ツキイチ弁当事業	312,000 円	大人 150 人・子ども 180 人想定。 保護者 200 円×100 人×12 回。 子ども 1 人目のみ 100 円×60 人×12 回(多子世帯へ配慮し、子どもの数にかかわらず1人目 100 円のみ)
	ささっこ青空ひろば	12,000 円	大人 20 人・子ども 40 人想定。 保護者 200 円×20 人×2 回。 子ども 1 人目のみ 100 円×20 人×2 回(多子世帯へ配慮し、子どもの数にかかわらず1人目 100 円のみ)
	ひとり親交流会参加費	13,500 円	300 円×15 世帯×3 回
自己資金		34,700 円	
合計		3,052,200 円	

【支出】

科目	内容	金額	備考
使用料	施設使用料 (ささっこ青空ひろば)	10,000 円	5,000 円×2 回
	講演会会場 使用料	6,000 円	託児用の和室含む
	交流会会場 使用料 (ひとり親世帯交流会用)	12,000 円	1,000 円×4 時間×3 回
謝金	遊び講師謝金	20,000 円	10,000 円×2 回
	講演会講師謝金	55,000 円	京都いえのこと勉強会理事長 木本努氏
	託児ボランティア謝金	6,000 円	講演会開催時の託児謝金

飲食費	弁当代 (ツキイチ弁当用)	2,178,000 円	550 円×330 人×12 回
	弁当代 (ささっこ青空ひろば用)	66,000 円	550 円×60 人×2 回
	弁当代 (ひとり親世帯交流会用)	82,500 円	550 円×50 個×3 回
	弁当代 (コロナ自宅療養世帯用)	55,000 円	550 円×100 個
	離乳食代	36,000 円	100 円×5 袋×6 世帯×12 回
	飲物代 (ひとり親世帯交流会用)	15,000 円	100 円×50 本×3 回
	弁当代 (コロナ自宅療養世帯用)	6,000 円	200 円×30 世帯
サービス 利用料	夏野菜収穫体験費	30,000 円	2,000 円×15 世帯
	黒枝豆収穫体験費	30,000 円	2,000 円×15 世帯
	イチゴ狩り体験費	75,000 円	11 才以上 2,000 円×15 人 11 才未満 1,500 円×30 人
印刷費	講演会チラシ印刷費	3,000 円	1,000 枚
	団体活動紹介 リーフレット印刷費	5,700 円	1,000 部
委託費	団体活動紹介リーフレット デザイン費	49,500 円	A4 サイズ三つ折りリーフレット
備品・ 消耗品費	子ども遊びに関わる消耗品	20,000 円	1 回あたり 10,000 円×2 回
	事務用品、その他消耗品	20,000 円	
保険料	行事用保険 (ひとり親世帯交流会用)	7,500 円	50 円×50 人×3 回
	行事用保険 (ささっこ青空ひろば用)	6,000 円	50 円×60 人×2 回
人件費	事務局人件費	150,000 円	日程調整、各種手配など
	会計担当人件費	50,000 円	日々の入出金、助成金報告書作成 時・年度決算時の会計
	収穫体験交流会 スタッフ・ボランティア	30,000 円	2,000 円×5 人×3 回
旅費交通費	ボランティア交通費	27,000 円	ガソリン代 150 円×(15km×2[往 復分]÷10km)×5 人×12 回
諸会費	市民プラザ登録料	1,000 円	
合 計		3,052,200 円	